

(雑 録) 2007 年 4 月—2008 年 9 月まで

1. 学会誌発表論文

- 1) 藤田孝康・木村和也・森 光典・田中勝久・木元克則・岡村和磨・森勇一郎 (2007): 有明海奥部サルボウガイ漁場における曳航式微細気泡装置による底質改善実験. 水産工学. 44 (2), 101-111.
- 2) Yurimoto T., Mori Y., Ito S. and Maeno Y. (2008): Reproductive cycle of the subcrenated ark shell, *Scapharca Kagoshimensis* (TOKUNAGA, 1906) in Ariake bay, Japan. Journal of Shellfish research, 27 (5), 1101-1108.
- 3) Sekimoto S., Yokoo K., Kawamura Y. and Honda D. (2008): Taxonomy, molecular phylogeny, and ultrastructural morphology of *Olpidiopsis porphyrae* sp. nov. (Oomycetes, stramenopiles), a unicellular obligate endoparasite of *Bangia* and *Porphyra* spp. (Bangiales, Rhodophyta). Mycological Research 112: 361-374.
- 4) 田井 明・斎田倫範・矢野真一郎・川村嘉応・野口敏春・小松利光 (2008): 有明海湾奥における近年の潮流の変化と残差流の変動特性. 海岸工学論文集, 55, 371-375.

2. 各種雑誌

- 1) 中島則久 (2007): 海の移り変わり與人々のつながり. 佐賀県立宇宙科学館平成 19 年度夏の特別企画展「玄海と有明海」ふるさとを育んだふたつの海. 展示解説書. 41.

3. 研究会シンポジウム報告書

- 1) 津城啓子・野口敏春・有吉敏和・藤崎 博 (2007): 人工アゲマキの中間育成飼育と囲繞堤内のアゲマキの状況. 文部科学省科学技術振興調整費・重要課題解決型研究等の推進「有明海生物生息環境の俯瞰型再生と実証試験」佐賀グループ課題「湾奥部干潟域における底質環境の再生実証実験」中間報告会資料, 18-19.
- 2) 神田康三・三根崇幸 (2008): 海苔スミノリ症病原細菌に感染するバクテリオファージ 佐賀大学有明海総合研究プロジェクト成果報告集 第4巻.
- 3) 野口敏春 (2008/9): 有明海講演会 カキ礁復元による有明海再生講演集. NPO 法人有明海再生機構, 1-14.

4. 調査報告書, 事業報告書

- 1) 森勇一郎・中島則久 (2008): サルボウガイの摂餌生態の解明と色落ち防止効果の検討. 平成 19 年度新たなノリ色落ち対策技術開発委託事業のうち二枚貝増養殖技術の開発調査報告書 p.34.
- 2) 首藤俊雄・久野勝利・吉田幸史 (2008): 河川水によってノリ養殖漁場に運ばれる栄養分の平面的な広がりや持続性の把握. 平成 19 年度新たなノリ色落ち対策技術開発事業. 河川水最適利用技術の開発報告書, 22-29.
- 3) 佐賀県有明水産振興センター (2008): 有明海粘質状浮遊物原因究明調査報告書.

5. 学会における口頭発表

- 1) 八木佑太・木下 泉・藤田真二・青山大輔・川村嘉応 (2006 静岡): 有明海湾奥部河口域におけるイヌシタ属 2 種 (コウライアカシタビラメ・デンベエシタビラメ) 仔稚魚の分布および食性の比較. 日本魚類学会年会.
- 2) Maeno Y., Suzuki K., Kiyomoto S., Yoshida M., Fujisaki H. and Nasu H. (2007): Experimental transmission of virus from moribund pen shells *Atrina pectinata* to healthy pen shell. 13th International Conference of the European Association of Fish Pathologists. Abstract, 114.
- 3) Sekimoto S., Yokoo K., Kawamura Y. and Honda D. (2007/3/26 Kobe) Morphology, taxonomy, and molecular phylogeny of *Olpidiopsis* sp., an intracellular obligate oomycete parasite of *Porphyra* spp. XIXth International Seaweed Symposium.
- 4) 八木佑太・木下 泉・上田拓史・藤田真二・久野勝利 (2007, 北海道大学): 有明海湾奥部河口域におけるニベ科 2 種 (コイチ・シログチ) 仔稚魚の分布および食性の比較. 日本魚類学会年会.
- 5) 三根崇幸・小林元太・神田康三 (2008/9/20 長崎大学) 海苔スミノリ症病原細菌に感染するウイルスファージ. 日本農芸化学会 2008 年度西日本支部大会講要 p.36.
- 6) 田中重光・向井賢吾・三根崇幸・川村嘉応・神田康三・小林元太 (2008/9/20 長崎大学): 海苔スミノリ症病原細菌の系統分類. 日本農芸化学会 2008 年

度西日本支部大会講要 p.35.

- 7) 八木佑太・木下 泉・藤田真二・青山大輔・川村嘉
 応 (2006 静岡) : 有明海湾奥部河口域におけるイヌ
 ノシタ属 2 種 (コウライアカシタビラメ・デンベエ
 シタビラメ) 仔稚魚の分布および食性の比較. 日本
 魚類学会年会.
- 8) Yagi Y., Kinoshita I., Fujita S., Ueda H. and Kuno K.
 (2008 Yokohama) : Importance of the bottom part
 estuary for fish nurseries in Ariake Bay. 5th World
 Fisheries Congress.
- 9) 八木佑太・木下 泉・上田拓史・藤田真二・久野勝
 利 (2008 愛媛大学) : 有明海湾奥部河口域における
 ニシン目 3 種 (エツ・サツパ・ヒラ) 仔稚魚の分布
 および食性の比較. 日本魚類学会年会.

6. 研究会等における講演および口頭発表

- 1) 三根崇幸・小林元太・神田康三 (2008/9/12 佐賀大
 学) : 海苔スミノリ症病原細菌に感染するウイルス
 ントファージ 第 2 回ファージ研究会.
- 2) 森勇一郎 (2007/8/27 佐賀市) : 今年度のモガイの
 生産状況について, 現在のカキ養殖状況 有明海再
 生機構 第 6 回生産分科会.
- 3) 森勇一郎 (2007/3/24 佐賀市) : モガイの生産状況
 と今年度の生産予測 今後のモガイの資源管理につ
 いて 有明海再生機構 平成 19 年度 第 2 回生産
 分科会.
- 4) 野口敏春 (2008/8/16 福岡市) : 一カキ礁復元によ
 る有明海再生— 有明海のカキ養殖の歴史とカキ礁
 の重要性. 有明海再生機構 有明海講演会.